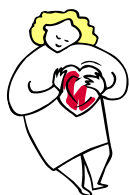


女性のための心とからだセミナー

受講料は
無料です♪

フェムテックと「女性の健康」

～生理・妊娠・更年期～



フェムテックとは、女性を意味する「Female(フィメール)」と技術を意味する「Technology(テクノロジー)」を掛け合わせた造語で、月経・妊娠・更年期など女性が辿るライフステージの健康課題をテクノロジーで解決する新しいサービスや製品のことで。

女性活躍推進が叫ばれ、社会進出が進む中、月経(生理)による不調や更年期などに悩みながら、我慢して仕事をやり過ごす女性も少なくありません。そんな女性特有の健康課題を放置することは「社会損失」につながるとの認識が広がり、女性の健康を支える商品や技術、サービスを意味する「フェムテック」が世界的に注目されています。

今回の講座では、県内におけるフェムテック市場の現状や県外企業の取り組みなどの取材をされた、沖縄タイムス社の新垣記者と佐渡山記者をお招きし、市民へのヘルスリテラシー向上のためのお話をさせていただきます。

日時：8月5日(土) 午後2時～4時

場所：なは女性センター 学習室(なは市民協働プラザ)

定員：36人(事前申込先着順) 対象：関心のある方



講師：新垣 綾子さん
(沖縄タイムス社DX戦略局デジタル
編集部副部長)

☆プロフィール (あらかき あやこ)

2000年に沖縄タイムス入社。社会、くらし、県政、スポーツなどを取材し、現在はデジタル編集部記者。手掛けた連載には、沖縄の高齢者問題を追った「銀髪の時代～『老い』を生きる」や、精神障がい者差別の歴史を取り上げた「『座敷牢』の闇で～私宅監置を考える」など。貧困ジャーナリズム賞に「精神障がい者の私宅監置」表彰受賞。



講師：佐渡山 倫子さん
(沖縄タイムス社営業局営業部
主任)

☆プロフィール (さどやま みちこ)

2007年に沖縄タイムス入社。文化事業局(イベント企画運営)や編集局(記者)を経て、営業局営業部主任。

2022年11月～2023年4月、沖縄タイムス社SDGs企画「Step with you～」を企画。勉強会内容や紙面内容、フェムテックイベントの運営に携わった。



講座のお申込みは、
左記のQRコードからできます。

*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。7月28日(金)までにお申し込みください。なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

なは女性センターを利用される皆さまへ

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。なお、ご利用の際のマスク着用につきましては、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に沿い、個人の判断に委ねることといたします。

男女格差(ジェンダーギャップ)指数ランキング2023 146カ国中125位

世界経済フォーラム(WEF)では、各国のジェンダー不平等状況を分析した2023年版「ジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index:GGI)」を公表しました。男性に対する女性の割合(女性の数値/男性の数値)を示しています。0が完全不平等、1が完全平等となります。

日本は昨年の116位/146カ国から9ランクダウンしました。公表開始以来、過去ワーストの順位となっています。分野別でみると、政治が昨年と変わらず最下位クラスです。国会議員や閣僚の男女比、過去50年に女性の首相が誕生していないことも要因で改善がみられていません。

また、教育・保健の分野では比較的順位が上位となっています。しかし、日本は教育の分野で前回の1位から順位を落としました。これは「高等教育就学率」の男女比が今回から加わったことによります。そして現在、教育の分野は、指数対象国146カ国中117カ国が0.950以上の指数となり格差を解消しています。

ジェンダーギャップ指数が低いと、女性への被害の増加、賃金の不平等が発生します。解消するためには、政府や自治体、企業が一体となって社会の在り方や制度を変えていくなどの取組みが重要です。



日本の各分野の順位(146カ国中)

分野(GGI)	順位(昨年)	各分野ごとの使用データなど
経済(0.561)	123位(121位)	労働力、同じ仕事の賃金の同等性、所得の推計値、管理職に占める比率、専門職に占める比率 * 労働参加率の男女比、同一労働での男女の賃金格差が大きく、女性管理職比率が低い。
教育(0.997)	47位(1位)	識字率、初等・中等・高等教育の各在学率 * 中等教育(中学校・高校)の在学率は高いが、高等教育(大学・大学院)の女子の在学率が低い。
保健(0.973)	59位(63位)	新生児の男女比率、健康寿命 * 男女ともに平均寿命が長いことなどにより評価は多少良くなっている。
政治(0.057)	138位(139位)	国会議員に占める比率、閣僚の比率、過去50年の行政府の長の在任年数 * 国会議員の男女比、閣僚の男女比など、女性の占める割合が低い。

主要7か国(G7)の順位
()の中は昨年の順位

ドイツ	6位↑(10位)
英国	15位↑(22位)
カナダ	30位↓(25位)
フランス	40位↓(15位)
米国	43位↓(27位)
イタリア	79位↓(63位)
日本	125位↓(116位)

なは女性センター講座2023

「ハンセン病と女性」～金城幸子さんの人生を通して考える～

ハンセン病は単なる感染症の一種で、治療で治る病気にも関わらず、今でも偏見や差別の対象になっているのは、なぜなのでしょう。

この講座では、回復者の金城幸子さんと、ハンセン病隔離行政を長きにわたり取材されてきたジャーナリストの山城紀子さんをお招きし、「ハンセン病と女性」をテーマに、お二人の対談形式で開催します。

日時: 9月2日(土) 午後2時～4時

講師: 金城 幸子さん(ハンセン病回復者)

講師: 山城 紀子さん(ジャーナリスト)

受講料は
無料です



*詳しくは、次号の「なは女性センターだより」でお知らせいたします。



講座のお申込みは、左記のQRコードからできます。

場所: なは女性センター学習室(なは市民協働プラザ1階)

定員: 36人(事前申込先着順) 対象: 関心のある方

*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。8月25日(金)までにお申し込みください。なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

講座を 終えて

講座名:「性の多様性と人権」～レインボーフラッグを掲げて～

開催日:2023年6月17日(土) 午後2時～4時 / 参加者:18人

講師:竹葉 梓さん(市民団体ていーだあみ共同代表)・山城 彰子さん(市民団体ていーだあみ共同代表)

市民団体「ていーだあみ」共同代表の竹葉梓さんと山城彰子さんのお二人にお話をいただきました。

【性が「多様」とは】から、講義は始まりました。

「からだの性」。「こころの性」。「好きになる性」は、女性や男性のどちらかでなく、女性を好きになったり、男性を好きになったりする人もいます。また、誰にも恋愛感情や性的欲求を持たない人もいます。「表現の性」は、服装やしぐさ、言葉遣いなどから表現される性です。「性は、実に多様で、豊かなもの」だと再認識できました。

【セクシャルマイノリティの現状】では、

性別違和を持ち始めるのは、多くが中学生以前(岡山大学ジェンダークリニック調べ)です。ですから「小学校からの対応が必要」になります。しかし、小学校から高校1年まで「学校で正しく教わっていない」現状が93%(REACH ONLINE 2005)あり、「当事者も自分自身のことをよくわからない」という結果が出ています。

さらに、「LGBTの学校生活に関する実態調査/2013年(いのちリスペクト。ホワイトリボンキャンペーン)」によると、「性別違和のある男子の82%がいじめや暴力にあっている」という結果に、いじめの問題が深刻なことが明確になっています。異性愛でない人の自殺未遂は、異性愛者の約6倍という調査結果がでており、早急な対応が求められます。

【沖縄の文化とセクシャルリティ】



▲講師の山城 彰子さん

- ① 長男が大切にされる社会(門中制度やトトメー(位牌)継承)ゆえに、男女で求められる役割が違ってくる。
- ② シマ社会の狭い人間関係のため、カミングアウトしにくい。
- ③ 実家から離れる経済力がない場合が多く、安心できる空間を作りにくい。
- ④ 身近にロールモデルがない。ことなどがあげられました。

那覇市を含め、さまざまな地方自治体で戸籍上同性間のパートナーシップを認める制度が続いていますが、法的な家族ではないため、「手術の同意や病状説明、臨終時の立会い、所得税や相続税の配偶者控除が受けられない」など、異性婚であれば自動的に得られる当たり前の権利が皆無です。「自分が暮らしているところで、家族として認められること、市が認めてくれることは大きい。」と語る竹葉さんの言葉は、切ない気持ちになりました。



▲講師の竹葉 梓さん

【トランスジェンダーの生活上の困難】については、

トイレや更衣室などの施設や制服、入院、健康診断、選挙(投票)など、制度上や慣習上で「男らしさ・女らしさ」の性別役割の影響が強く、生きづらさを抱えながら生活していることを詳細に説明してくださいました。

最後に、ていーだあみ共同代表の佐脇さんが加わり、アライ(ally) = 「LGBTQを理解・支援する人」としてできることについて、クロストークを行いました。

- ① 知ること…LGBTの基礎知識を学ぶこと、当事者の話を聞くこと。
- ② 変わること…自分の言動や行動を見直すこと、差別的表現を使わないこと。
- ③ 表明すること…自分自身がアライ(ally)であることを表現すること。

アライだからできることがあります。

講座当日に配布したレインボーバッジをバッグや服に着けてみることや、偏見のある会話を聞いた時には、注意をする等、勇気のいることですが、進んで行動することで、アライの輪を広げていけると感じました。自分も社会も変えていく勇気を得ることができました。



▲佐脇さん(写真右)とのクロストークのようす

Book

★なは女性センターでは、女性問題やジェンダーに関する図書の貸し出し及び資料の閲覧ができます。貸出し期間:2週間 お一人2冊まで

『令和5年版 男女共同参画白書』 内閣府男女共同参画局 編集/290ページ/2023年6月16日発行



今年度の「男女共同参画白書」が発行されました。白書では、前年度の男女共同参画社会の形成の状況や促進に関する施策がまとめられています。

令和5年度の特集テーマは「新たな生活様式・働き方を全ての人の活躍につなげるために～職業観・家庭観が大きく変化する中、「令和モデル」の実現に向けて～」です。

1日の時間の使い方や雇用形態、労働時間、育児休業等の両立支援策の状況など、様々な切り口から、家事・育児等の無償労働時間が女性に、仕事等の有償労働時間が男性に偏っている実態を示すとともに、それに起因する社会の課題を包括的に指摘しています。

内閣府男女共同参画局 HP (ホームページ)からダウンロードできます。
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html

女性センターで
閲覧できます。

相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用していませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

098-861-7515

月～土 午前9時～12時/午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

周辺地図



■ モノレール「古島駅」から10分

- 新都心区内(10番)なは市民協働プラザ前バス停すぐ(8番)銘苅1丁目バス停5分 (99番)那覇国際高校前7分
- 県道82号線側 古島バス停10分
- 国道330号線側 真嘉比バス停・興南高校前バス停各10分

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は**有料**です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間が1時間に満たない場合は1時間として計算。	

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」は、市長がパートナーシップ・ファミリーシップの関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、「登録証明書」及び「登録証明カード」を交付するものです。

登録数 **51組**

2023年7月15日現在

*これまでに登録された方へも「登録証明カード」の交付ができます。

- 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

■ お問い合わせ・申請の予約

TEL. **098-951-3203** ◆月～金:午前9時～午後5時

* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始(12/29～1/3)を除く

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

開催日時: 2023年9月30日(土)午後2時～4時
場所: なは女性センター(なは市民協働プラザ1階)

主催: 市民団体ていーだあみ

メール: tiidaami.okinawa@gmail.com



※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。

with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

はやくワンストップ 24時間
TEL **#8891** 365日

※繋がらない場合は、098-975-0166へ

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、申込みQRコードでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問い合わせ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

開館時間	休館日
月～金:午前9時～午後9時	年末年始(12/29～1/3)
土曜日:午前9時～午後5時	日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)



なは女性センター
メール



なは女性センター
ホームページ



Facebook